

1 体外受精の治療成績について

- 2
- 3 ○ 橋本和美（臨床検査科） 扇りか（臨床検査科）
4 松野恵子（臨床検査科） 大沢真知子（臨床検査科）
5 山縣麻衣（産婦人科） 尾崎江都子（産婦人科）
6 田巻勇次（産婦人科） 伊澤美彦（産婦人科）
7

8

9 **【目的】** 当院の体外受精療法は、14年が経過した。
10 その間の治療成績について検討。

11 **【対象と方法】** 1997年から2010年までを対象に体外受精胚移植（IVF-ET）、配偶子卵管内移植（GIFT）
12 顕微授精（ICSI）、及び凍結胚移植（CRYO）の治療成績について報告する。
13

14 **【結果】** 体外受精年間実施件数は、開設当初においては20周期、2011年（11月現在）では83周期を施行。
15 IVF-ET、GIFT、ICSI及びCRYOの平均妊娠率は、
16 28.5%、40%、20%、21.8%、流産率は、24.7%、25%、
17 22.7%、28.2%、生産率は、21.5%、30%、15.5%、15.7%
18 である。年齢別の妊娠率、流産率、生産率は、30歳未満：42.2%、15.8%、35.5%、30-34歳：31.7%、
19 27.1%、23.1%、35-39歳：24.8%、19.1%、20%、40-41歳：20.3%、41.7%、11.9%、42-46歳：11.3%、66.7%、
20 3.8%であった。多胎率は、2002年で15.0%であったのに対し、2008年から単一胚移植の施行を受けて
21 2011年（11月現在）では0%と減少した。
22

23 **【まとめ】** 当院の平均妊娠率及び生産率は、25.6%、
24 19.0%、症例あたりの妊娠率は62.4%であった。全国平均は27.7%、19.0%であることから遜色ない成績である。
25

26 体外受精の治療成績には、年齢的因子が最も重要とされている。当院での治療対象年齢は、35歳以上
27 が70%を占めている。治療成績の更なる向上を図るためには、なるべく早い時期からの治療が必要と考えられる。
28

29 047-363-2171
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39